

映文連第 08・07 号（2026 年 5 月 12 日）

令和 7 年度  
事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日  
至 令和 8 年 3 月 31 日

公益社団法人 映像文化製作者連盟

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町 17-18 藤和日本橋小網町ビル 7 F

TEL 03-3662-0236 FAX 03-3662-0238

<https://www.eibunren.or.jp>

## 目 次

### 事 業 活 動

|                                                      |    |
|------------------------------------------------------|----|
| 令和7年度事業計画（概要） .....                                  | 1  |
| 令和7年度事業報告 .....                                      | 3  |
| Ⅰ. 映像コンテンツの質的改善と普及啓発のための「映文連アワード」開催と<br>国際交流事業 ..... | 3  |
| Ⅱ. 映像コンテンツの利用促進及び公共団体等の普及啓発事業への協力 .....              | 12 |
| Ⅲ. 映像コンテンツの発展と振興に関わる提言事業 .....                       | 15 |
| Ⅳ. 映像製作技術を提供する人材育成セミナー等の開催 .....                     | 16 |
| Ⅴ. 会員サービスの充実等 .....                                  | 20 |
| Ⅵ. その他の事業 .....                                      | 20 |

### 総務関係事項

|                 |    |
|-----------------|----|
| 1. 会員の異動 .....  | 21 |
| 2. 連盟発行文書 ..... | 22 |

### 資 料 編

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 「映文連アワード2025」関連記事 .....    | 27 |
| その他の映文連関連記事 .....          | 35 |
| 令和7年度 国内他コンクール受賞作品一覧 ..... | 40 |

## 令和 7 年度事業報告書

### <令和 7 年度事業計画（概要）>

#### 1) 映像産業振興への貢献（映像製作者への支援を目指して）

当連盟は、社会教育としての映像の役割の追求を創立の原点とし、映像メディア革新に対応しつつ今日を迎えている。時代を越えて、映像を作り続ける人々を支援することが変わらぬ当連盟の基本的な方針である。

中核事業である「映文連アワード」は本年で第 19 回目を迎える。インターネットやスマートフォンの普及により、「短編映像」はますます活発に製作、発信され、世界を自由自在に駆け巡っている。『映像自由区 Filmmakers' Frontier』が本年度の映文連アワードのテーマである。〈映像の力〉を実証するような、インパクトのある作品の登場を今年も期待したい。

当連盟としては、時代の変化に即応しながら映像産業振興への貢献を目指すと同時に、映像の普遍的な価値の創造に寄与する活動を後押ししていきたい。

#### 2) 会員活動を通じた交流、発展への寄与

デジタル化は映像製作業界に大きな変革をもたらしている。動画配信、バーチャルプロダクト、生成 AI 等の革新は新しいビジネスチャンスの到来を生み出すと同時に、新規参入者の増大や競争の激化など変化への対応も要求される。こうした変革の時代に、会員間の課題を共有化し、交流を通じて会員企業の発展を目指すことが求められている。

新会員の拡大、会員間・関連業界の交流、外部講師による研修、外部への発信力強化を進め、人材育成、法令改定、公正な取引、著作権、海外市場、技術革新等の経営課題について、会員相互の交流の場を活性化したい。

#### 3) 財務基盤の強化

財務基盤の脆弱さが当連盟の永年の課題である。映文連アワードや諸セミナー開催等においてはコスト削減の徹底を進める中で、収支構造の改善を目指して来たが、一方で長期的な会員数の減少傾向が続き、基盤となる会費収入の低下を事業収益向上では埋めきれなかった。こうした環境下において、2024 年度は会費値上げ、アワード参加費値上げをお願いしたが、残念ながら財政改善の目標は達成できなかった。2025 年度は引き続き、更なる構造改革と事業見直しを進めると同時に、新たな助成金等の申請も進めることとする。中期的に持続可能な事業の選択と推進方法、運営体制の抜本的な改善を、会員各位の意見を集めながら引き続き継続する。

令和7年度の映文連は、上記の計画を踏まえて、次の4つの事業を中心に実施してきた。

1) 映文連アワード（映像コンテンツの質的改善・普及啓発事業）

連盟の中核事業である映文連アワードは、短編映像のフラッグコンクールとして幅広いジャンルの作品を募集し、一般的には視聴されることの少ない映像作品群にスポットを当てて顕彰の場を創出してきた。2025年もアワードを継続し、コンテンツ普及啓発に寄与することを目指した。

それと同時に、応募作品数、協賛企業、寄付募集等の収入増を目指し、実施の効率化を進め事業収支改善と運営プロセス合理化を進めた。また、国際短編映像祭については、海外の映像製作者との交流など活動の幅を広げた。

2) コンテンツ利用促進（公共団体等への普及啓発事業）

公正な取引、著作権、労務課題、IT導入など、コンテンツ利用促進にあたっての業界共通の課題を抽出して解決の道を探ることも当連盟に課せられた大きなテーマである。令和7年度は令和8年度版に向けて、隔年発行となった「映像制作費積算資料」編集の年でもあった。「映像制作費積算資料」は映文連が独自に発行する唯一無二の貴重な出版物であり、地方公共団体を含めて販路を拡大して業界発展に寄与するとともに啓発を進めた。

3) 関連業界課題解決（映像コンテンツ発展と振興への提言事業）

「TANPEN塾」「著作権セミナー」「新入社員向けセミナー」等映像コンテンツ業界に共通する課題の抽出、映像メディアの新潮流情報の共有化の柱であり、同時に業界全体の人材育成、情報発信、業界交流の中核事業として実施を進めてきた。「技術セミナー」は開催時期をずらすため、令和7年度は実施しなかったが、令和8年度は実施する。タイムリーなテーマで会員間の情報共有を進めることで、これらの活動は引き続き継続する。

4) 会員交流、会員サービス

理事会、委員会の透明で公平な運営、情報公開と情報サービスの実施を引き続き継続した。会員各社には各委員会の委員依頼、アワード審査員依頼等幅広く連盟の活動への参加をお願いした。懇親会等の場で会員交流を活発化させた。

また、連盟の運営においてはデジタル化、電子化、ペーパーレス、キャッシュレス等を更に進め、効率化とサービス向上、コスト削減を目指した。

以上

## <令和7年度事業報告>

### **I. 映像コンテンツの質的改善と普及啓発のための「映文連アワード」開催と国際交流事業**

映像コンテンツの質的改善と普及啓発のために映像祭『映文連アワード2025』を開催するとともに、欧州・アジアなど海外の映像祭主催団体との交流を推進し、それらの文化ゾーンに属する優れた企業映像を「International Corporate Film Showing 2025」（『世界の優秀企業映像を見る会』）において紹介する。上記2事業は2010年度より統合して「映文連 国際短編映像祭」（JAAP International Short Film Festival）とし、アジアにおける短編映像の国際映像祭として開催している。

#### **1. 「映文連アワード2025」の開催**

「映文連アワード」は2007年に“プロフェッショナルの、プロフェッショナルによる、プロフェッショナルのための”映像祭として、プロフェッショナルの仕事にふさわしい作品を積極的に評価・顕彰することによって短編映像業界の活性化を図るとともに、次世代を担う新しい才能（学生・個人）を発掘し、映像業界のインキュベータとしての機能を担うことを目的として創設された。

令和7年1月以降、2025年度の構想を検討、引き続きオープン化し、広く一般に公募を行うことにし、文部科学省と経済産業省、東京都にご後援頂き、ソーシャル・コミュニケーション部門に「文部科学大臣賞」を、コーポレート・コミュニケーション部門に「経済産業大臣賞」を設けた。後援団体としては、17の機関・団体にご協力頂いた。『映文連アワード2025』のコンセプト及びキャッチコピーは、『映像自由区 Filmmakers' Frontier』。私たちは改めて本連盟発足当時の映画人たちの熱い心意気に思いを馳せ、そして今、時代やメディアは変われども日夜クリエイティブワークに心血を注ぐ仲間たちにその心意気が受け継がれていることを発見。引き続き、クリエイターたちを支援し、育成することを意図した。ポスター（クリエイティブディレクション：長谷部守彦氏、アートディレクション：倉田潤一氏、平井美紗氏）を作成し、4月1日より募集を開始。ニュースリリース、ポスター（A1サイズ）・フライヤーの配布、Web等による告知を行い、短編業界の枠を越えて広く作品募集したところ、応募〆切の5月31日までに157本の作品応募があった。

#### **審査について**

「映文連アワード2025」の審査は、従来どおり2段階審査で行い、まず一次審査は7月上旬から下旬にかけて8日間（7月9、10、11、15、17、18、23、24日）にわたって部門毎に実施。会員各社より推薦を受けた経験豊かなプロデューサー・ディレクターを中心とした一次審査委員が審査にあたった。審査はマニフェストの基本四要件を審査基準とし、これをベースに「企画力」「構成・演出力」「映像表現力」「情報発信力」「プロデュース力」等の5つの審査項目について、今年度も10段階方式で各審査委員が加点し、総合点で順位をつけた。その結果、点数と討議によりコーポレート・コミュニケーション部門は59作品のうち29作品、ソーシャル・コミュニケーション部門は40作品のうち19作品、パーソナル・コミュニケーション部門は57作品のうち22作品が一次審査を通過した。

二次審査は8月8、19、21、25日の4日間実施。二次審査委員は、部門ごとに分かれて、コーポレート・コミュニケーション部門は、長谷部守彦氏（博報堂エグゼクティブクリエイティブディレクター）、澤本嘉光氏（電通グループ グロース・オフィサー／エグゼクティブ・ク

リエーティブ・ディレクター)、片岡良子氏 (ADK チェリー コピーライター)、清水亮司氏 (ロボット 映像ディレクター／クリエイティブ・ディレクター)、ソーシャル・コミュニケーション部門は、谷川建司氏 (映画ジャーナリスト)、岡田秀則氏 (国立映画アーカイブ 主任研究員)、松本貴子氏 (映画監督)、中山治美氏 (映画ジャーナリスト)、パーソナル・コミュニケーション部門は、安藤紘平氏 (映画監督／早稲田大学名誉教授)、永田琴氏 (映画監督)、井手陽子氏 (アスミック・エース 映画製作部 プロデューサー)、宮田公夫氏 (電通ライブ チーフ・クリエイティブディレクター／プロデューサー) に審査員を委嘱、映文連側から中嶋清美理事が加わり、一次審査と同様 10 段階方式で一次通過作品を審査し、受賞作品を決定した。文部科学大臣賞と経済産業大臣賞については選考結果を各省庁とも確認の上で受賞作品を決定した。

受賞作品は、最優秀作品賞 (グランプリ) 1 作品、文部科学大臣賞 1 作品、経済産業大臣賞 1 作品、優秀作品賞 (準グランプリ) 3 作品、部門優秀賞 15 作品、優秀企画賞 8 作品、新設の製品・技術解説賞 2 作品、企画特別賞 1 作品、優秀撮影賞 1 作品、優秀クリエイター賞 1 名、奨励賞 2 作品の合計 35 作品と 1 名となった。尚、個人賞「i 賞」は該当者がなかった。

最優秀作品賞 (グランプリ) は、『SBC スペシャル 本田先生のこころ診察室～発達障害のこどもたち～』 (製作：信越放送) が受賞。文部科学大臣賞には、『だから、私はここで生きる～福島・大熊町 移住した若者たち～』 (製作：テレコムスタッフ株式会社／株式会社 NHK エデュケーショナル／日本放送協会)、経済産業大臣賞には、『【MAZDA ドキュメンタリー】RX-7 と過ごした 25 年間、最後の 3 日間～クルマが残してくれたもの～』 (製作：LUCK 株式会社 クライアント：マツダ株式会社) が選ばれた。

審査終了後、映文連HP及び会員メールで受賞結果を発表するとともに、新聞各紙・業界紙、雑誌等にニュースリリースを流した。主要業界紙 (映像新聞・ビデオ通信等) や新聞等で大きく扱われた。受賞関係者の Web サイト等にも記事が多数掲載された。

### 「映文連 国際短編映像祭」(JAAP International Short Film Festival)

2010 年度より『映文連アワード』と『世界の優秀企業映像を見る会』の 2 事業は統合して「映文連 国際短編映像祭」(JAAP International Short Film Festival) としてスタートしている。

また「国内映画祭等の活動」を支援する芸術文化振興基金助成金交付に申請し、引き続き交付が認められ、増額されて助成金 300 万円の支援を受けることになった。また、今回は一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS) の共通目的基金の助成金交付にも申請し、助成金 300 万円の支援を受けることになった。

告知方法については、今年度も受賞作品上映会の約 1 ヶ月前に公式ホームページに、「映文連 国際短編映像祭」として単独のHP (協力：モニタージュ) を立ち上げ、上映会の紹介やチケット申込みなどができるようにし、その他、SNS を使った受賞作品紹介にも力を入れた。今年度もパンフレット (3,500 部) を作成 (協力：イメージサイエンス、DNP コミュニケーションデザイン) し、会員社、映像関連団体、ぴあ、上映館、ミュージアム、大学等に送付し、参加を呼びかけた。東京での上映会チケットは、一般の人々も購入出来るようにチケットぴあを通じて販売、映文連事務局でも取り扱った。プログラム 1 回券 800 円 (当日 1,000 円)、1 日券 2,000 円 (当日 2,400 円)、学生券 500 円に加え、各プログラム共通鑑賞券 5,000 円を設けた。大阪上映会についてもチケットを用意して実施した。

### 『映文連アワード 2025』特集号の発行

令和 7 年度も、会報“MOVING IMAGES”の特別号として『映文連アワード 2025』特集号を 11

月下旬に刊行、約 20 ページにわたってアワード受賞作品紹介等をした。(編集協力：ユニ通信社) 今年度も文部科学省と経済産業省にご後援頂いたことから、冒頭に両大臣の言葉を掲載、表面・裏面ともにデザインは告知ポスターを踏襲しつつ、小冊子用にデザインを組み換え、裏面にはキャッチコピーを入れて製本。巻頭巻末には、映像関連会社や会員社からご協力を得て、協賛ページ広告 (8 件)・ロゴ広告 (24 件) を掲載した。

### 表彰式について

「映文連アワード 2025」の表彰式は、11 月 26 日 (水) 午後 1 時 30 分からこれまでと同様に国立新美術館講堂において開催した。会場にはアワード受賞者や関係者など約 190 名が出席。そうした中、多くの人に見てもらう方策として、前回に引き続き今回も表彰式の模様をライブ配信し、生中継 (日経チャンネル) の視聴数は約 300 名だった。

受賞者には賞状とトロフィーが授与され、表彰式後の上映会では最優秀作品賞、経済産業大臣賞受賞作品が上映された。

### 受賞作品上映会について

「映文連アワード 2025」表彰式に続き、11 月 27 日、28 日には池袋・新文芸坐において『映文連アワード 2025』受賞作品上映会を開催し、最優秀作品賞 (グランプリ) 受賞作品を始め、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞、部門優秀賞、優秀企画賞などの受賞 36 作品を一堂に集め、受賞部門ごとに 6 つのプログラムに分けて公開上映した。両日ともトークイベントを催した。

### 映文連アワード受賞作品上映会

日 時：2025 年 11 月 27 日 (木)・28 日 (金)

会 場：新文芸坐 (東京都豊島区東池袋 1-43-5 マルハン池袋ビル 3F)

参加者：約 500 名

11 月 27 日 (木) 午前 10 時 00 分 ～ 午後 6 時 35 分

#### A プログラム 素晴らしき自然・人々・文化

『驚き！地球！グレートネイチャー 壮観！黄金文明の大地 ～ブルガリア～』 29 分

製作：株式会社日経映像 / 株式会社 NHK エンタープライズ / NHK

『里山の自然 小さな命の輝き』 22 分 10 秒

製作：難波由城雄

『普段着のアイヌ』 29 分 54 秒

製作：国立アイヌ民族博物館

『和菓子』 26 分 7 秒

製作：株式会社桜映画社

クライアント：株式会社 榮太樓総本舗

#### B プログラム 映像自由区 若手監督の映像

『戦略的夫婦喧嘩』 40 分

製作：三上泰輝

『Dancing in the rain』 6分27秒

製作：葉昭均)、内山智博

『生きているんだ友達なんだ』 39分36秒

製作：上野詩織

『折り鶴と蒼い蛙』 19分30秒

製作：Chavo

『さよなら来福亭』 28分41秒

製作：寺谷千穂

『狐の嫁入り』 25分

製作：恵水流生

トークセッションⅠ 15時10分～16時00分

出演 恵水流生（「狐の嫁入り」プロデューサー・監督）

上野詩織（「生きているんだ友達なんだ」監督）

Chavo（「折り鶴と蒼い蛙」監督）

寺谷千穂（「さよなら来福亭」監督）

モデレーター 宮田公夫（電通ライブ プロデューサー）

#### **Cプログラム 映像自由区 コーポレート映像**

『ユレルオトコ』 2分

製作：株式会社ギークピクチャーズ / 株式会社ルート・アンド・アソシエイツ

クライアント：岡山トヨペット株式会社

代理店：株式会社第一エージェンシー / 株式会社POPS

『パナソニック プロダクションエンジニアリング 会社紹介 コンセプトムービー』 4分44秒

製作：パナソニック映像株式会社

クライアント：パナソニック プロダクションエンジニアリング株式会社

『Deep Story - 西海物語- [アクティブ篇] 』 15分

製作：長崎文化放送株式会社/LUCA 株式会社

クライアント：長崎県西海市

『大阪関西万博 未来の都市パビリオン コモン2 展示 映像コンテンツ群』 17分52秒

製作：株式会社モンタージュ

クライアント：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

『水無瀬イノベーションセンター コンセプト映像 Circle』 44秒

製作：株式会社DNP コミュニケーションデザイン

クライアント：積水化学工業株式会社

代理店：大日本印刷株式会社

『ひとりじゃない』 1分

製作：太陽企画株式会社

クライアント：アフラック生命保険株式会社

『【MAZDA ドキュメンタリー】RX-7 と過ごした25年間、最後の3日間  
〜クルマが残してくれたもの〜』 9分46秒

製作・代理店：LUCK 株式会社  
クライアント：マツダ株式会社  
『サステナドームの秘密 -コンクリートが未来を救う-』 5分29秒  
製作：株式会社 K プロビジョン  
クライアント：鹿島建設株式会社  
『日清オイリオ横浜磯子工場 Road to 油/You』 5分29秒  
製作：株式会社 DNP コミュニケーションデザイン/株式会社グミ  
クライアント：日清オイリオグループ株式会社  
代理店：大日本印刷株式会社  
『足立建設工業 110 周年記念映像「水の道に立つ」』 14分1秒  
製作：株式会社 アストラカン  
クライアント：足立建設工業株式会社  
『リテイク』 19分57秒  
製作：ソニーPCL 株式会社  
『【EOS R50 V】Product Story | 開発者インタビュー』 6分51秒  
製作：株式会社 bird and insect  
クライアント：キヤノン株式会社  
代理店：株式会社 A0I Pro.  
『新人西松さんとまかせられる人』 6分7秒  
製作：株式会社 エスプロ  
クライアント：西松建設株式会社  
代理店：株式会社 日本経済広告社  
『大丈夫2』 3分58秒  
製作：株式会社 東北新社  
クライアント：サイボウズ株式会社  
代理店：株式会社 日本経済広告社  
『年末年始にいるいる劇場 by シソンヌ』 4分20秒  
製作：太陽企画株式会社 / 株式会社電通  
クライアント：株式会社ユニクロ

11月28日（金）午前10時00分～午後6時15分

#### Dプログラム 社会と未来を考える

『わたしを生きる 認知症とともに歩む社会』 59分  
製作：株式会社エネット/NHK エンタープライズ/NHK  
『誰も悪くないのにね』 10分18秒  
製作：株式会社スプーン  
クライアント：公益社団法人 Marriage For All Japan  
『あなたのいる庭』 35分52秒  
製作：東映株式会社  
クライアント：兵庫県／公益財団法人 兵庫県人権啓発協会

『Resettlement - Chicago Story』 35 分 52 秒

製作：東谷麗奈 / Full Spectrum Feature

『月に立つ。その先へ、』 17 分 34 秒

製作：有限会社 ライブ

クライアント：宇宙航空研究開発機構 JAXA

代理店：株式会社 大広 WEDO

## **E プログラム 地方こそフロンティア**

『それでも私は... SL 専務車掌の現在地』 31 分

製作：日本大学芸術学部 坂本亮真/ 岡遥歩

『金山の道、百年の光。山形県金山町町制施行 100 周年記念映像』 30 分 6 秒

製作：株式会社山形アドビューロ

クライアント：山形県金山町

『子育て まち育て 石見銀山物語 2024 春夏』 44 分

製作：株式会社エネット/株式会社 NHK グローバルメディアサービス/NHK

『だから、私はここで生きる〜福島・大熊町 移住した若者たち〜』 59 分

製作：テレコムスタッフ株式会社/株式会社 NHK エデュケーショナル/日本放送協会

## **F プログラム 自分らしく生きる**

『希望の花 咲く日まで 〜脳挫傷から始まる新たな夢〜』 53 分

製作：青森朝日放送株式会社

『SBC スペシャル 本田先生のこころ診察室〜発達障害のこどもたち〜』 50 分

製作：信越放送株式会社

**トークセッションⅡ** 17 時 25 分〜18 時 15 分

出 演 宮川伊都子（「SBC スペシャル 本田先生のこころ診察室」 ディレクター）

宮部洋二郎（「だから、私はここで生きる」 ディレクター）

宮田桃子（「子育て まち育て 石見銀山物語 2024 春夏」 ディレクター）

モデレーター 谷川建司（映画ジャーナリスト）

「映文連アワード2025」受賞作品の地方上映会は、大阪で開催した。大阪上映会は1月29日（木）12:20〜16:35、大阪歴史博物館において開催し、9作品上映した。

令和8年度も「映文連アワード2026」は引き続き広く一般に公募を行うことにし、文部科学省と経済産業省のほか東京都にご後援頂き、ソーシャル・コミュニケーション部門に「文部科学大臣賞」を、コーポレート・コミュニケーション部門に「経済産業大臣賞」を設け、また、パーソナル・コミュニケーション部門に「東京都知事賞賞」を新設し、これまで同様「映文連 国際短編映像祭」(JAAP International Short Film Festival)の一環として実施する。

今年20年目を迎える『映文連アワード2026』のキャッチコピーは「SHOW THE UNKNOWN まだ見ぬ、何かを。」。めまぐるしく変化する時代の流れの中で、創ることへの情熱と、創れることへの感謝を胸に、私たちは何度でも新たな挑戦を重ねる。燃え上がる想いが、これまでになく景色へと私たちを導くまだ誰も見たことのない世界が、いまここから羽ばたく。——といったクリエイティブコンセプト。

引き続き、クリエイターたちを支援、育成していきたいという意図のもと、ポスターを作成し、4月1日より募集を開始した。

## 2. 国際交流事業

日本では鑑賞の機会が少ない海外の企業映像を上映する「International Corporate Film Showing」（「世界の優秀企業映像を見る会」）を開催するとともに、米国・欧州・アジアなど、海外の映画祭主催団体との交流を推進し、国際映像祭への参加斡旋、相互訪問などを行い、映像製作に関する国際交流を進める。

### 1. WorldMediaFestival 等への参加斡旋

企業映像をカテゴリーに含めた映像祭として、ドイツ・World Media Festival、CannesCorporate Media&TV Awards、US International Awards、AUTOVISION AWARDS と連携して参加促進を行っている。また、2025 年度も、CannesCorporate Media&TV Awards と US International Awards、は、木村委員長が審査員を引き受け、審査に参加した。

### 2. 「International Corporate Film Showing 2025」開催

国内では鑑賞の機会が少ない海外コンクールの優秀作品を紹介するために、上記の映画祭を中心に世界の優れた企業映像を選定し、上映会を開催することとし、企画推進は国際委員会が担当。第 28 回を迎える今年度もこれまでと同様「映文連 国際短編映像祭」の一環として上映会を行うことになった。

今期は、ドイツ・World Media Festival から 5 作品、US International Awards から 7 作品、CannesCorporate Media&TV Awards から 5 作品、AUTOVISION AWARDS から 1 作品、以上を選出し上映することになった。

上映会は、11 月 27 日午後 7 時より池袋・新文芸座にて開催。4 つの映像フェスティバルの今年度受賞作品等より、海外の企業映像 18 作品を木村委員長による作品紹介つきで上映した。また、海外の監督、プロデューサー、映画祭関係者等のビデオメッセージ等を上映したことで、作品の製作背景などを知ることができた。

ICFS のチケット料金は、これまでと同額の 2,500 円（当日券 3,000 円）とした。前回同様に入場時にワンドリンクを選んでもらい飲みながら参加できる形式とした。

2025 年度のプログラムは以下のとおりである。

## International Corporate Film Showing 2025

### ■ World Media Festivals

#### 1. TWISTED PARADISE (Grand Award) [ドイツ] 2 分 32 秒

企画：Schaeffler AG 製作：STEREOSCREEN GmbH

解説：ポルトガルのナザレー - 世界最大級の大波が押し寄せる「ねじれた楽園」。人類の限界を超えるスピードが求められる極限の世界で、世界記録保持者のサーファーが最新技術と鍛え抜かれた肉体を武器に、再び記録更新に挑む。

2. Ball Launch: Österreichische Bundesliga x Derbystar (Gold) [ドイツ] 1分15秒

企画: DERBYSTAR Sportartikelfabrik GmbH 製作: KG Media Sports GmbH

解説: 国内最上位のプロサッカーリーグである、オーストリアのブンデスリーガ。そんなブンデスリーガの公式試合球を老舗ブランド「ダービースター」が初めて作ることに。球のデザインに込められたのは、国のプライドと情熱だ。

3. The Dream Factory (Gold) [スイス] 7分38秒

企画: Pilatus Aircraft 製作: Blush Films GmbH

解説: “スーパーパワー”を持つ飛行機に憧れる少年リオ。その存在を信じない少女に、彼はスイスのとある秘密工場について語り始める。そこでは世界中の精鋭たちが、技術と情熱を注ぎ、夢の飛行機を造っていた。

4. Committed together to build a future (Grand Award) [フランス] 2分44秒

企画: Département de Seine-et-Marne 製作: 1616prod

解説: スーパーヒーローに憧れる少年ジュール。日常生活を送りながら、いじめや差別に遭う同級生に寄り添い、地域活動に参加し、アートや自然に触れる。コミュニティに貢献する中で、彼は立派なヒーローに成長していた。

5. Bridge to a Sustainable Future (Grand Award) [中国] 2分41秒

製作: Sungrow

解説: “自然と共生する”とはどういうことか? 27年以上にわたり自然資源と再生可能エネルギーの間の架け橋となってきたサングロウ社は、自然が持つ無限の可能性と科学技術を結び付け、今後も人間の創造を促していく。

■ US International Awards

6. Falling for Autumn (Grand Prix) [スイス] 1分52秒

企画: Switzerland Tourism 製作: Mcqueen Films 代理店: Wirz Group AG

解説: CM撮影の直前、スイスの秋を探しに森へと消えたマッツ・ミケルセン。彼を追って森へ入ったロジャー・フェデラーが見たのは、大自然に没入するマッツの姿だった。やがて、彼自身も秋のスイスに魅了されていく。

7. Visit the Original Sweden (Grand Prix) [スウェーデン] 1分56秒

企画: Visit Sweden 製作: BR F - B-Reel Films 代理店: Forsman & Bodenfors

解説: 実は世界に複数存在する「スウェーデン」という地名。スウェーデン観光局は、高級ブランド同様、地名にも「本物」と「偽物」の区別が必要だと主張する。観光客を確実に自国へ呼び込むために同局が取った行動とは。

8. A matter of substance (Gold) [フランス] 4分54秒

企画: Michelin 製作: Tulipes & Cie

解説: 科学と共に歩んできたミシュラン。なぜ彼らは、知の迷宮に挑み続けるのか。それは、自然界のあらゆる物質に宿る力を信じ、人と地球の未来に還元するため。科学と自然を敬い、調和の先

にある新たな価値を見つめる。

9. Close-ups of clean-ups (Gold) [スイス] 53 秒

企画：The Art of Spice 製作：Filmgerberei Gmb

解説：クローズアップで映し出される色とりどりの食材が、風味豊かな一皿へ。その日の気分で繊細にも力強くも、料理を思いのままデザインできる。思わず皿を舐めまわすほどの美味しさとともに、スパイスの魅力を描く。

10. POWERED BY LOVE (Gold) [イギリス] 3 分 23 秒

企画・代理店：TAMART DESIGN LIMITED 製作：108 PICTURES

解説：最愛の両親を亡くした 1 人の建築家。大量の作品や記録を見つけ、2 人の物語を後世に伝える決心をする。立ち上げた家具・デザインブランド Tamart を通じて、タマルとアーサーのデザインに新たな命を吹き込む。

11. Generations (Gold) [フランス] 5 分 57 秒

企画：Clément Perotti Safran S.A. 製作・代理店：MIP Master Image Programmes

解説：会社の創立 50 周年パーティーに出席するため、パリに向かう 1 人の男性。機内でまどろむ彼は、過去をたどる夢を見る。親子 3 代にわたる絆、そしてフランスとアメリカを結ぶ航空機エンジンへの情熱を描いた物語。

12. Portugal's Unwritten Recipe (Gold) [ポルトガル] 2 分 3 秒

企画：Turismo de Portugal 製作：Casper Films 代理店：Dentsu Creative

解説：長い歴史と豊かな伝統が息づくポルトガル。教科書にはないレシピで、この国は今日も人と文化を混ぜ合わせ、新しい味わいを作り続けています。そこには、土地と人に優しく寄り添う、温かな心が息づいています。

■ Cannes Corporate Media & TV Awards

13. This is the rhythm of Swift 1 分 57 秒

監督：Laurent Stine 製作：doubledouble.be

解説：「今すぐ」が当たり前の時代。高まるスピードの要求に応え、揺るぎないセキュリティと信頼性のもと、世界中の取引を進化させる。新しい価値をめぐらせ、つながる力で共に未来を切り拓く――SWIFT のストーリー。

14. Anniversary Film - 200 Years of Wiener Stadtische Versicherungsverein

[オーストリア] 2 分 48 秒

企画：Wiener Städtische Versicherungsverein 製作：WestFX & Samsara Filmproduktion GmbH

代理店：Büro André Heller GmbH & DMB.

解説：2 世紀にわたり、社会と共に変遷してきたウィーン市相互保険会社。グループ全体として、事業展開を着実に拡大し続けている。世界的アーティスト アンドレ・ヘラーの発想に基づき、その沿革を盛大かつ鮮やかに描く。

15. Am Wörthersee (Gold) [オーストリア] 3分07秒

企画: Region Wörthersee – Rosenthal Tourismus GmbH 製作: Lensecape Productions & Eutopiafilm

代理店: Lensecape Productions / Ager & Gumpenberger OG

解説: 湖が謎の水位低下に見舞われ、1週間で干上がる危機に。伝説の「ヴェルターゼー湖の小人」による神罰か、それとも人間の欲望による陰謀か。美しい湖畔を舞台に、君臨する3つの名家を中心に展開する緊迫の物語。

※製作者インタビュー映像付き

16. The Broken Heart (Grand Prix Corporate) [デンマーク] 3分

企画: Novo Nordisk Sweden 製作: Video & Live Production, Novo Nordisk

解説: 忙しい毎日の積み重なる小さな選択。それが招く代償は大きく、幸せな日常は一瞬で崩れ去る。突然倒れた夫、救急車を呼ぶ妻。予防の大切さを説くノボノルディスクからのメッセージ。その選択が、明日を変える。

※製作者コメント付き

17. Yalla Yalla - FIFA World Cup 2034 - Welcome to Saudi (Best Cast / On-Camera Talent)

[サウジアラビア] 2分41秒

企画: Saudi Arabia's Ministry of Sport 製作: Specter Production 代理店: 80s Creative

解説: 「ようこそ、サウジへ!」FIFAワールドカップ2034の開催国となったサウジアラビア。伝統と未来が織り成す映像美を背景に、友情と誇り、そして世界を迎え入れる歓びを、歌と踊りで力強く描く祝祭のミュージックフィルム。

※製作者インタビュー映像付き

## ■ AUTOVISION AWARDS

18. MARRY ME (Future Prize) [ドイツ] 59秒

製作: Marco Henn 監督: Alex Kuhn 協力: Volkswagen AG

解説: ガールフレンドを喜ばせようと、彼女の車の後ろにサプライズを用意した男性。だが彼女の車は予想外の動きを見せる。完璧と思われた計画を軽やかに出し抜いた、フォルクスワーゲンの新しい機能とは?

※製作者コメント付き

### 3. 日本で開催される国際映画祭への支援

令和7年度、国内で開催された短編・記録映像・アニメの国際映画祭は、SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2025(7月18日~7月26日)などである。これらの映画祭には、名義上の後援・協賛に留まらず、会員への告知などの形で支援した。

## II. 映像コンテンツの利用促進及び公共団体等の普及啓発事業への協力

映像コンテンツの利用促進のために、歴史的文化的にみて希少価値のある映像コンテンツを編集・企画するとともに、公的機関の推進する映像アーカイブや普及啓発事業に協力する。また、短編映像作品の唯一とも言える登録情報である「作品登録データベース」を活用し、作品登録を促すとともに短編映像作品情報を公開している。

## 1. 会員作品（映像資産）の共同企画

歴史的文化的にみて希少価値のある会員等の所有する映像資産の有効活用を促す目的で、これまで以下のような映像作品の共同企画に取り組んできた。

しかし、平成 23 年度以降は、これまで共に企画を推進してきた㈱紀伊國屋書店の映像情報部が解散したため、新規の企画は望めなくなり、既存の作品集の継続販売のみとなっている。尚、以下の作品集はすでに販売終了となっている。

- ・「毎日映画コンクール 大藤信郎賞受賞短編アニメーション全集」DVD 8 巻
- ・ポーラ伝統文化振興財団作品 DVD シリーズ「伝統の技と心」第 1・2 期

### (1) 紀伊國屋書店 DVD シリーズ『ドキュメンタリー映像集成』第 1・2 期の継続販売

平成 17 年、戦後 60 年を期に会員等が保有する作品の膨大な集積の中から、多面的な切り口による短編ドキュメンタリーで構成された現代日本の歩みを通観できる DVD シリーズを目指し、㈱紀伊國屋書店との共同企画が始まった「ドキュメンタリー映像集成 文化・記録映画でよむ現代日本」全 30 巻は、「第 1 期 戦前から戦後へ／民主主義と科学映像の系譜」12 巻を平成 18 年 2 月に発売。その 4 年後、平成 21 年度末より第 2 期の企画作業に入り、故・吉原順平氏、渡部実氏、原田健一氏 3 氏の選考委員により 44 作品を選定し、各製作会社の協力を得て、「第 2 期 高度成長期の産業と社会／歴史と文化の再発見」全 12 巻を平成 23 年 2 月に販売開始した。令和 7 年度も両シリーズを継続販売した。

### (2) 「アニメーションの先駆者 大藤信郎 孤高の天才」DVD の継続販売 他

当連盟では鑑賞の機会が少ない非商業系の短編アニメーションの編集企画を行い、㈱紀伊國屋書店から販売している。アニメの先駆者・大藤信郎が注目されていることもあり、平成 21 年度末から個人集として「大藤信郎作品集」DVD の編集企画に入り、平成 22 年 6 月に東京国立近代美術館フィルムセンター（NFC）において開催された企画展「アニメーションの先駆者 大藤信郎」に併せて、DVD『アニメーションの先駆者大藤信郎 孤高の天才』（価格 6,000 円＋税）を発売し、令和 7 年度も継続販売した。

その他、継続発売中の DVD シリーズ

- 「日本アートアニメーション映画選集」DVD12 巻
- 昭和 30 年代重厚長大ビッグ・プロジェクトを記録した産業映画 DVD

## 2. 「科学技術映像祭」の開催

第 66 回科学技術映像祭（日本科学技術振興財団ほか 3 団体との共催）は、2024 年 1 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までに完成した 46 作品のうち 18 作品が優秀科学映像（内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、優秀賞、特別奨励賞、学生奨励賞、各団体賞）に選定された。2025 年 7 月 28 日に科学技術館サイエンスホールにおいて、表彰式が開催された。また、地方での入選作品発表会についても、実施されている。

受賞作品は、他団体の開催した各種映像祭とともに資料編に掲載した。

## 3. 国立映画アーカイブと協調した作品原版の保存促進

近年、フィルム原版の保管について、貴重な文化遺産である優れた作品の数々が散逸や破棄の危険に晒されている。

映像資産活用委員会では、平成 12 年度から東京国立近代美術館フィルムセンター（現・国

立映画アーカイブ）と協調体勢を組み、フィルム原版を寄贈の形式で永久保存を図っている。

原版類寄贈については、文化・記録映画とニュース映画は映文連会員社からのものが多くを占めるが、令和7年度は文化・記録映画169本（2025年1月末現在）が収集され、文化・記録映画の累計収集本数は、33,181本に達した。ニュース映画は13本（2025年1月末現在）が収集され、ニュース映画の累計収集本数は、17,195本に達した。

#### 4. 大藤信郎の「くじら」「幽霊船」2作品のデジタル復元

平成24年6月、東京国立近代美術館フィルムセンターより当連盟が著作権を管理する大藤信郎の『くじら』『幽霊船』の2作品をデジタル復元したいとの申し出があり、長期保存に耐え得ると言われる、青・緑・赤の三色に分解して白黒銀画像としてフィルム（ETERNA-RDS）に保存する方法をとり、IMAGICAの協力を得てデジタル復元作業が行われ、完成した復元作品は平成25年3月29日にフィルムセンターへ納品された。

その後、デジタル復元版『くじら』『幽霊船』2作品については、平成25年10月東京国際映画祭で特別上映され、12月8日映文連60周年記念上映会においても特別上映された。

また、コミュニティシネマセンターと東京国立近代美術館フィルムセンターとの共同主催でデジタル復元したフィルム作品を巡回上映する「蘇ったフィルムたち」でも平成25～28年に全国各地のシアターで上映された。

近年では、三鷹の森ジブリ美術館の企画で令和3年3月6日に開催された三鷹の森アニメフェスタ2021「海を描いたアニメーション」において『幽霊船』デジタル版が上映されたり、各所で上映されている。

#### 5. 埼玉県「彩の国デジタルアーカイブ」作品収蔵事業への協力

埼玉県が川口市内に開設した「NHK アーカイブス」をその一部とする映像新産業拠点「SKIPシティ」は、平成15年2月1日に完成し公開された。映文連が開館に至る3年にわたって作品収蔵に協力した作品は累計900本を数え、オリジナルネガ（原版）のみが死蔵されていた秀作が本事業をつうじてデジタル化され、再活用の道が拓かれた。平成18年より一部の収蔵作品の冒頭部分をストリーミングデータ化し、同アーカイブのホームページ上で公開する試みが始まり、連盟としてはアーカイブ事業のデジタル化に伴う作品収蔵に協力してきた。

令和7年度は、デジタルアーカイブに収蔵された作品のうち、映文連会員関係の該当作品はなかった。

#### 6. 「作品登録データベース」の活用

映文連は、短編映像の所在情報として、作品登録制度を1959年（昭和34年）に立ち上げ、書誌データとして保存している。このデータは、独立行政法人メディア教育開発センター（NIME）の協力でデータベース化され、映文連の公式ホームページ（[www.eibunren.or.jp](http://www.eibunren.or.jp)）より約17,000作品が「作品名」、「造船」や「鉄鋼」のようなキーワード、「スタッフ名」から検索できるようにされてきた。

しかし、メディア教育開発センターは、平成21年3月末をもって独立行政法人整理合理化計画により廃止され、その業務は放送大学ICT活用・遠隔教育センターに移管され引き継がれることになったが、データベース関連の機器は古く、平成22年10月には使えなくなる見込みとなり、同センターよりシステム（ソフトウェア）を映文連に譲渡してもよいとの提案を受け、対応策を検討した結果、現行のままCSV形式でデータを取り出し、映文連のHP上に移設する

ことになった。平成 23 年 4 月にデータ提供を受けて再構築を行い、同年 7 月の映文連HPリニューアルに合わせ、再オープンした。

令和 7 年度は、作品登録は 2 件だった。同データベースは、一般の人も自由に過去の登録作品の検索を行うことができるデータベースとして、アーカイブ関係者の文化・記録映画の著作権情報に関する調査研究に大いに役立っており、文化庁 HP の「日本映画情報関連リンク」に国立映画アーカイブ、キネマ旬報、JFDB 日本映画データベースとともにリンクされている。

また、では、2026 年 4 月から運用開始の未管理著作物裁定制度の要件の一つとして、文化庁著作権課著作物流通推進室が進めてきた「分野横断権利情報検索システム」に関して、映文連では推進への協力や「作品登録データベース」の紐付けなど協力してきた。「分野横断権利情報検索システム」は 2026 年 2 月 26 日から運用開始している。

### **Ⅲ. 映像コンテンツの発展と振興に関わる提言事業**

映像コンテンツ振興及び質的向上のために、関連業界共通の課題解決を協議し、社会への提言活動を行う。また、公正な受注契約を結ぶための著作権知識の啓蒙と普及をはかるため、HP による啓発や「著作権セミナー」の開催、多様化するメディア環境に即した適正な製作費を確保し、製作状況の改善をはかるため、製作費に関する実績調査を行い、『映像製作費積算資料』を作成し発行する。

#### **1. 著作権セミナー開催**

公正な受注契約を結ぶための著作権知識の啓蒙と普及をはかるため、「著作権セミナー」の開催やHPによる啓発活動を行っている。

令和 7 年度の著作権セミナーは、2025 年 5 月 28 日にオンライン開催した。テーマは「映像等のコンテンツ利用と映像関係の著作権最新動向」。講師は明治大学情報コミュニケーション学部教授、知的財産法学者の今村哲也氏。パブリックドメインの映像その他コンテンツに関して、また、著作権者不明の場合の裁定制度など、映像制作にあたってのコンテンツ利用等のポイントや注意点、そして、AI によるディープフェイクとパブリシティ権との関係等々、最新の映像関係の著作権トピックスを解説するとともに、質疑への回答を行った。

#### **2. 『著作権契約ハンドブック』の頒布継続**

平成 21 年 6 月 9 日、9 月 25 日に東京と大阪で開催された北村行夫弁護士(虎ノ門総合法律事務所)の著作権セミナーでの質疑応答(Q & A)に、契約書参考例を加えて作成された『著作権契約ハンドブック』(前文、著作権とは何か、著作権Q & A[権利を守るためのQ & A/権利を使用するためのQ & A]、著作権関連団体・機関リスト 24 頁)を平成 22 年 9 月に出版した。令和 7 年度も販売を継続した。

#### **3. 適正な製作費の確保と製作状況の改善をはかるための『映像製作費積算資料』販売**

映文連が発行する『映像製作費積算資料』は、主に中央官庁、公共団体、地方自治体において製作予算積算・入札の際の資料として一定の評価を得ており、製作予算の確保・予算の執行の際にこの資料を参照することが浸透している。令和 6 年 4 月発行分より隔年発行としたが、令和 7 年度は令和 8～9 年度『映像製作費積算資料』を発行するための調査・編集の年となった。作成は業務委員会(積算資料編集委員会)が担当した。委員会(令和 7 年 11 月 14 日、12

月4日、令和8年2月13日）では、最近2年間の製作費の実績を調査し、また、会員から寄せられた意見、さらに各種機材・技術料の情報を委員から集約し、そのデータをもとに客観性のある内容となるように配慮した。主な検討課題となったのは以下の諸点である。

- <製作人件費>の「スタッフ費」については、令和6～7年度版で全てに関して一割程度の増額を行ったが、実勢の状況に合わせて、今回更に全てに関して一割程度の増額とした。
- <ビデオ製作の部>「機材関係費」で、[カメラ・VTR機材費]の項目追記と金額を改定した。
- <ビデオ製作の部>「機材関係費」で、[照明機材費]にLEDライトの項目追加をした。
- <ビデオ製作の部>「機材関係費」で、[マルチコプター（ドローン）使用料]で、表記の仕方を調整、またマイクロドローンに関して注書きを追加した。
- <ビデオ製作の部>「記録メディア費」で、[S×Sメモリーカードレンタル費]の項目を新規に追加した。
- <ビデオ製作の部>「編集関係費」で、[編集費][カラーグレーディング費][方式変換料]の金額を改定した。
- <ビデオ製作の部>「録音費」で金額改定をした。
- <ビデオ製作の部>「バリアフリー版製作費」で金額を改定した。また、音声合成ソフトや監修について注書きを追加した。
- <ビデオ製作の部>「DVD-Videoコピー費」で、[オーサリング基本料（メニューなし）]の金額を改定した。
- <ビデオ製作の部>「デジタイズ費・ファイル変換作業費」で、全体的に金額を改定した。
- <ビデオ製作の部>「DVD-Video関係」で、[オーサリング料]の金額を改定した。
- <ビデオ製作の部>「Blu-ray関係」で、[オーサリング料]のBD-AV作成料の金額を改定した。
- <映画製作の部>「バリアフリー版製作費」で金額を改定した。また、音声合成ソフトや監修について注書きを追加した。
- <映像製作の手順>「Web製作見積例」における、配信費用の記載方法を調整、また金額を改定した。

令和8～9年度版『映像製作費積算資料』は、4月1日より頒布を開始した。

#### **IV. 映像制作技術を提供する人材育成セミナー等の開催**

##### **a) 技術セミナー開催**

映像製作に関する最新技術の情報収集に努め、技術セミナー等の開催を通じて、新しい映像製作技術を会員のみならず広く一般に提供することになっている。令和7年度は、冬に実施する予定のリアルセミナーが令和8年度の4月にずれ込んだため、年度内の実施はなかった。

##### **b) 「映文連 TANPEN 塾」の開講**

若手の人材育成を目指し、平成24年度より「映文連 TANPEN 塾」集中講座（シリーズ）を開講した。平成26年度からは、これに加えて新入社員のための映像制作基礎講座も開講している。

## ■新人社員のための映像制作基礎講座

この講座は、制作プロダクションに入社したばかり新入社員を始め、映像制作のワークフローを知りたい方々などに対して、わかりやすく映像制作の基礎的な知識を伝えるもので、講師陣は、短編映像業界で活躍する経験豊かな専門家からなる。カリキュラムは、企画から撮影・編集まで、映像制作の基礎から最新の技術情報まで含まれ、制作現場での実践に役立つ知識を身につけることができる講座となっている。令和7年度は、その第10弾をZoomウェビナーで開催した。

日 時：2025年6月23日 11:00～17:20

Zoom ウェビナー

講座内容：

### 第1講 プロダクションマネージャーの仕事

広告動画制作の一連のフローと、各プロセスにおいてプロダクションマネージャーが担当する業務と注意点について。

講師：大久保 絢斗 氏（株式会社博報堂プロダクツ チーフアソシエイトプロデューサー）

### 第2講 ディレクターの仕事

ディレクターの仕事に求められるものとは？ドキュメンタリー番組を中心とした制作エピソードを交えながら、映像制作の醍醐味や難しさ、キャリアアップについてトーク。

講師：小畑 哲 氏（株式会社エネット チーフディレクター）

### 第3講 カメラマンの仕事

テレビ番組におけるカメラマンの仕事とは何か。スタジオマルチカメラ制作、特に音楽番組制作における役割について現場での経験から伝える。ステディカムなどの特殊撮影機材についても触れる。

講師：関本 浩則 氏（株式会社NHK テクノロジーズ メディア技術本部 制作技術部 専任部長）

### 第4講 照明の仕事

照明技師とは監督の作品に対する気持ちや台本の内容を理解し具現化する仕事。撮影部と共に監督に協力して画づくりをする人。映像制作における照明の重要性などを伝える。

講師：西野 龍太郎 氏（株式会社爽風企画新社 照明技師）

田中 充 氏（株式会社爽風企画新社 照明技師）

### 第5講 ポスプロの仕事

ポストプロダクションでは何が行われているのか。エディターが撮影後から完パケまでの流れを解説。また、カラーリストがカラーグレーディングについて解説する。

講師：佐藤 究 氏（株式会社IMAGICA Lab. VFX アーティスト）

石川 洋一 氏（株式会社IMAGICA エンタテインメントメディアサービス カラーリスト）

## ■映文連 TANPEN 塾 集中講座

今日のメディア状況を踏まえながら、これから映像業界で活躍する人材育成をめざす講座を平成 24 年度より開設した。業界で活躍する講師陣を招き、様々な角度から映像のつくり方を伝授する講座で 1 回の講義に 2 名の講師を組み合わせ、毎回講師の対談（質疑応答含む）も交える多彩なカリキュラムとなっており、これから業界へ入る学生や制作プロダクションで働き始めた若手制作者、すでに経験を積んだ中堅の方々にも関心を持って頂ける講座となっている。令和 7 年度は、その第 14 弾を Zoom ウェビナーで開催した。

日 時：2026 年 3 月 2 日、9 日、24 日

16 時～18 時 30 分

Zoom ウェビナー

受講料：全 3 回会員 18,000 円、一般 22,500 円 1 回券 会員 7,000 円、一般 8,500 円（税込）

### 講座内容：

#### 第 1 回 3 月 2 日 クリエイティブを考える

##### 第 1 部 「拡張するクリエイティブの役割」

宮永充晃氏 株式会社博報堂 クリエイティブ局 クリエイティブディレクター

【講義概要】表現から実装へ。

クリエイティブディレクションの職能が広がる現代、領域を横断し価値を最大化させるための視座と実践を語ります。

【プロフィール】平成元年生まれ。2012 年 博報堂入社。マーケティングセクションでブランド戦略・デジタルマーケティングを担当。その後、クリエイティブ セクションへ異動し、クリエイティブ ディレクターへ。受賞歴：クリエイター・オブ・ザ・イヤー / ACC TOKYO CREATIVE AWARD / SPIKES ASIA / ADFEST / PR グランプリアワード / GOOD DESIGN AWARD / 日テレ CM 大賞 / 読売広告大賞 / JPM AWRD SILVER / DIME トренд大賞 etc 書籍：「ドンキはみんなが好き勝手働いたら、2 兆円企業になりました」 日経 BP 共著

##### 第 2 部 「半径 1 メートルから生まれる企画。」

星聡宏氏

株式会社 ADK マーケティング・ソリューションズ クリエーティブディレクター/コピーライター

【講義概要】身近な人との超個人的な体験から生まれた企画の方が、より多くの人の共感を得るのではないかとのお話です。

【プロフィール】新潟県生まれ。2024 年クリエイター・オブ・ザ・イヤー メダリスト。近年の主な仕事に、AC ジャパン「聞こえてきた声」 公文教育研究会「どんなもんだい!KUMON」 ハッピーターン「大人がハマるパウダー。」 SUNTORY こだわり酒場のタコハイ「多幸飲み紀行」 など。

#### 第 2 回 3 月 9 日 映文連アワード受賞作品製作者から

##### 第 1 部「生成 AI の登場で問われる『本当』の力」

小川凜一氏 LUCK 株式会社 プランナー/ディレクター

【講座概要】 ついにやってきた「映像だけでは誰も本物と偽物を判別できない」時代。  
だからこそ問われる「本当」だけが持つ力を考えます。

【プロフィール】 広告映像の企画・ディレクター。ドキュメンタリーを得意とし『RX-7 と過ごした 25 年間、最後の 3 日間（マツダ株式会社）』では再生数 94 万回の異例のヒットとなり、国内外から広告賞を受賞。児童書作家としても活動し、企画・制作を行なった『こども六法（弘文堂）』は 80 万部超えのベストセラーとなった。

## 第 2 部「この世界とは何か？」

恵水流生氏 監督・俳優・写真家・映像作家

【講義概要】 世界とは何かを問い、死・自然・芸術を通して時間と意識を知り、映画で世界を変える使命に至る旅。

【プロフィール】 emir heart Inc. CEO 初監督映画「THE BELL」は国内外映画祭 14 受賞、監督作「狐の嫁入り」は映文連アワード準グランプリ等 8 受賞。プロデュース長編映画『あつい胸さわぎ』『ひみつきちのつくりかた』は全国劇場上映。

## 第 3 回 3 月 24 日 コンテンツ業界最前線

### 第 1 部「テレビ東京のアニメ IP 戦略：変化するメディア環境でのアニメ IP の価値創造」

丸茂礼氏 株式会社テレビ東京ホールディングス アニメ・IP 戦略室長

【講義概要】 テレビ東京は、長年の歴史と共に数々の人気アニメ作品を生み出し、国内外でその影響力を拡大してきました。この講義を通じて、テレビ東京がどのようにアニメ IP の価値を最大化し、文化とエンターテインメントの未来を築こうとしているかをお伝えします。

【プロフィール】 1995 年テレビ東京に入社。番組宣伝部で「新世紀エヴァンゲリオン」などの宣伝を担当。2009 年～アニメ局で「妖怪ウォッチ」「ポケットモンスター」「NARUTO」など 30 作品以上に関わり、2024 年～アニメ局長としてアニメ事業全体を統括し、2025 年 4 月～現職。  
アニメビジネスでの実績：テレビ東京におけるアニメ事業で、宣伝・編成・製作・ライセンス・国際展開など、プログラママネージャーとして、企画・製作投資・編成調整・原作会社との交渉などを担当。

### 第 2 部「テレビ発想でつくる企業映像」

峯岸歩氏 株式会社クリーク・アンド・リバー社 メディアエージェンシー・グループ  
営業推進部 カンパニー報道局 セクションマネージャー

【講義概要】

テレビ番組制作のノウハウを活かし、1000 万回近い再生実績を生んだ企業映像の企画・構成・演出の考え方を事例で解説します。

【プロフィール】 カンパニー報道局のプロデューサー。テレビ番組制作で培った構成力・演出力を武器に、企業の教育・採用・広報映像を多数プロデュース。1000 万回近い再生実績を持つ映像も手がけ、「再生される企業映像」の企画開発を推進している。

## **V. 会員サービスの充実等**

映像コンテンツ業界が抱える幅広い課題に積極的に関わり、映文連会員はもとより異なるジャンルからの会員拡大を図り、次世代映像文化に関わる新しいビジネスヒントを提供する。

### **a) HPポータル活用**

公益法人移行に伴い、HPポータル機能のリニューアルを図り、HP・Web・メールを活用した会員への情報提供及び事業活動の広報を強化するために、映文連サイトリニューアルプロジェクトを立ち上げ、HPプラン検討、トップページのデザインを創案、HPホスティングサービスのプラン変更を行い、作品登録データベースのリニューアル版を組み込み、平成 23 年 7 月にサイトが完了し、オープンした。

6 年を経て、平成 29 年に再びHPリニューアルを図ることになり、広報委員会を立ち上げ、リニューアルプランを検討、アイコンに写真等を用い、動画（アワード受賞作品）が鑑賞できるようにして、国際短編映像祭の告知に合わせ、リニューアルオープンした。

令和 7 年度は、映像祭やセミナー告知に合わせて、情報を更新し、効果的な発信を行った。SNS も随時発信。従来通りメールを活用した会員への情報提供及び事業活動の広報も定期的に行った。

## **VI. その他の事業**

### **a) 視聴覚教材の現代的・未来的指向に関する調査研究**

視聴覚教育の形態は、IT を活用した教育へと大きく変容している。このような背景に対応し、視聴覚教育映像の役割を改めて検証していく必要がある。

平成 23 年度より令和 6 年度まで、当連盟と全国視聴覚教育連盟の協議に基づき、視聴覚センター・ライブラリーが頒布を受けた映像作品の廃棄・除籍を行う場合、全視連を通じて当連盟へ通知されることになっており、廃棄（移籍）届書を受け取り、関係する制作会社に作品リストを送付してきた。

しかしながら、時代の流れにより、本廃棄（移籍）届の意味合いがなくなっており、当連盟内の視聴覚教材委員会及び著作権委員会での協議、幹部会での協議、そして全視連とも協議の上、2025 年 3 月 31 日をもって、本廃棄（移籍）届は廃止となっている。

### **b) 各種調査及び行政施策への協力**

映像コンテンツ業界の実態、会員の製作状況について各種の調査をおこない、統計資料を整備して、所管官庁はじめ関連諸機関からの照会に応える。

令和 7 年度も、経済産業省等より要請のあった各種の周知や告知等に協力し、様々な情報発信に協力してきた。

### **c) 懇談会・懇親会等**

6 月 16 日 15 時 30 分より、KKR ホテル東京の大宴会場・白鳥において、会員懇親会を開催した。

経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 原品利治課長補佐、文化庁 参事官（芸術文化担当）付 田村順也芸術文化調査官から来賓祝辞、株式会社映像新聞社 会長兼 CEO 信井文夫氏の乾杯発声でスタート。その後、国立映画アーカイブ 岡島尚志館長の挨拶、新入会員挨拶、退任理事挨拶、会員社活動紹介等を行った。

## 総務関係事項

### 1. 会員の異動

令和7年度における会員の異動は次のとおりである。

#### 入会

##### 正会員

令和7年11月 株式会社千代田ラフト

##### 賛助会員

令和8年3月 株式会社メディア開発綜研

##### 準会員(個人)

令和7年4月 秦嘉和

#### 退会

##### 正会員

令和7年12月 株式会社博報堂プロダクツ

##### 賛助会員

令和7年5月 有限会社アップ・アート

令和7年10月 株式会社IMAGICA Lab.

##### 準会員(個人)

令和7年9月 加賀敬幸

令和8年3月 菊地実

#### 移籍

##### 正会員から準会員(法人)へ

令和7年10月 有限会社クリエイティブ・エレメント・ジャパン

現在の会員数は、正会員27社、準会員20社30人、賛助会員30社となる。

## 2. 連盟発行文書

### (イ) 映文連文書

| 番号    | 月 日     | 事 項                         |
|-------|---------|-----------------------------|
| 07・01 | 4月 1日   | 「映文連アワード2025」ポスター・チラシ配布について |
| 07・02 | 4月 1日   | 全映協様宛「映文連アワード2025」作品応募について  |
| 07・03 | 4月 8日   | 令和7年度総会懇親会案内                |
| 07・04 | 4月 25日  | 令和7年度通常総会開催案内               |
| 07・05 | 4月 30日  | 第598回理事会議事録                 |
| 07・06 | 5月 13日  | 令和6年度事業報告書                  |
| 07・07 | 5月 13日  | 令和6年度決算報告書                  |
| 07・08 | 5月 15日  | 総会議案資料の送付について               |
| 07・09 | 5月 30日  | 第599回理事会議事録                 |
| 07・10 | 6月 16日  | 令和7年度通常総会議事録                |
| 07・11 | 6月 16日  | 第600回理事会議事録                 |
| 07・12 | 7月 31日  | 第601回理事会議事録                 |
| 07・13 | 9月 30日  | 第602回理事会議事録                 |
| 07・14 | 10月 31日 | 第603回理事会議事録                 |
| 07・15 | 11月 30日 | 第604回理事会議事録                 |
| 07・16 | 12月 18日 | 積算資料に関するアンケートのお願い           |
| 07・17 | 12月 26日 | 第605回理事会議事録                 |
| 07・18 | 1月 13日  | 令和8～9年度役員選挙について             |
| 07・19 | 1月 30日  | 第606回理事会議事録                 |
| 07・20 | 2月 27日  | 第607回理事会議事録                 |
| 07・21 | 3月 10日  | 令和8年度事業計画書                  |
| 07・22 | 3月 10日  | 令和8年度収支予算書                  |
| 07・23 | 3月 12日  | 著作権問題に関するアンケートのお願い          |
| 07・24 | 3月 31日  | 第608回理事会議事録                 |

(ロ) 『映文連アワード2025』特集号(会報『MOVING IMAGES vol.63』特別編集)

・ごあいさつ

文部科学大臣 松本 洋平

経済産業大臣 赤澤 亮正

映像文化製作者連盟 会長 善方 隆

映像文化製作者連盟 顧問 住田 望(映文連アワード実行委員会委員長)

・最優秀作品賞(グランプリ)

・文部科学大臣賞

・経済産業大臣賞

・優秀作品賞(準グランプリ)

・審査を振り返って 長谷部守彦、谷川建司、安藤紘平

・部門表彰(コーポレート・コミュニケーション部門、ソーシャル・コミュニケーション部門、パーソナル・コミュニケーション部門)

・特別表彰(優秀企画賞、製品・技術解説賞、企画特別賞、優秀撮影賞、優秀クリエイター賞、奨励賞)

・映文連アワードギャラリー

・開催要項